

右同断 服部源藏

一御年貢紬五百四十七反毎年定納仕候

一右御用船江戸出帆之節、船中爲用米一艘へ米八十石宛相渡用米残り候得者島著之上總百姓へ割賦仕右代り織物にて翌年返納仕候

一鍋釜大小四百三十三隔年に御買上にて被下置候、總百姓割賦仕代り織物にて翌年返納仕候。此島田方少く何れも山田澤間の田にて霧深く實入不宜、總て水拂底之場所故旱損年々有之候、畑方も多分切替畑にて土地惡敷、年々不作仕候、作物之儀は、麥、粟稗胡麻芋、あした草作り夫食に仕候其外蕪大根、茄子、大豆、小豆、少宛作り申候。

一此島稼には男は農業之間漁事仕鮓、鰯、ふたひさ、魚、海老、かさご、鮫等を取、鮓多き節は鹽辛に致し置、平生夫食に入申候、海藻之内、海苔は、芋、とろてん草の類を取、其外葛野老、薯蕷、柑子、あさみ、屋々菜、虎杖椎の實を取渡世仕候、女は御用織物蠶を飼糸搗織立、一式并賣物紬す、し等織出渡世仕候染方は男計にて染申候。

一漁船拾五艘御座候

八丈島 小島 青ヶ島 御園穀
麥米九十九石六斗七升一合
麥百三十九石六斗二升一合

右者享保六年食種物代金五百兩拜借被仰付候處七十兩は享保十三申年御用船破損之節米麥流失之分、山田治右衛門伺之上被仰付殘金四百三十五兩之儀は、齋藤喜六郎伺之上享保十九年寅年より元文五年迄七ヶ年賦返納被仰付、寅巳ニヶ年作方損毛に付年延卯辰午未申酉戌迄七ヶ年金六十一兩一分永百七十八文六分づ、取立右上納金を以其年に米麥差出右之内卯年分穀物は御用船破損仕海中より取揚候米麥御拂代金十七兩一分永九十六文八分に相成殘金四十四兩、永八十一文七分は并損に被仰付候に付、右六ヶ年返納金并御拂代金を以調遣候、米百